

サーキット・ライダー 2002年11月号

感謝を忘れない

すべての国よ、主を賛美せよ。

すべての民よ、主をほめたたえよ。

主の慈しみとまことはとこしえに私たちを超えて力強い。

ハレルヤ

詩篇 117編

紅葉も盛期を過ぎ、日増しに寒さを増し長い冬の到来を感じます今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。早いもので今年もあと2ヶ月弱、11月は人種、宗教の違いに関わらず、アメリカ人が皆お祝いする感謝祭があります。この感謝祭の後は一気にクリスマス（キリスト教）、ハナカ（ユダヤ教）、ラマダン（イスラム教）とアブラハムから出た姉妹宗教は聖なる月を迎えます。そういった意味では11月12月は厳しい冬の始まりではありますが喜びに満ちた季節の始まりでもあります。

20数年前にアメリカに来て以来、私はニューヨーク、ニュージャージー、コネチカットと3州に住みましたが、東部の11月の空は灰色で重く、北国の空という感じでどうも意気消沈しがちです。この時期ディプレッション（鬱）になる人が多いのも分かる気がします。加えて現代人は日々慌しく過ごしすぎているようで、私だけでなく人間忙しい時にはどうも感謝をする心すら忘れてしまうような気がいたします。更に普段の生活を見つめ、どれほど感謝して生きているだろうかと問うと甚だ疑問です。そのような時期に感謝祭があり、喜びの季節を迎えるというのは実に意味深く、これもまた神の恵みと思えます。

9月のことです。私が若いころ、そう20年以上も前、まだ美術大学の学生だった頃、お部屋を間借りさせていただいた鈴木栄（えい）さんという2世のご婦人と長女のドロシーさんから心温まる手紙と「何か必要なところに使って下さい。」と献金を頂きました。丁度、私のコンピューターの日本語機能が麻痺してサーキットや教会週報、Eメールが書けないところでしたので、「日本語オフィスにも日本語機能付きのコンピューターがあったら良いな。」と思っていたので、教会員と相談して早速新しいコンピューターを購入させて頂きました。今は自分のとオフィスのとでバックアップができたので仕事もやり易くなりました。

鈴木栄さんは日米合同教会の会員で90歳を過ぎた今も、自分独りでマンハッタンのアップタウンのアパート（私が間借りしていた）に住み、毎日のように地下鉄に乗って、教会に出かけたり、シニアシズンの集いに出かけたりし、20年前とまったく変わらない信仰生活をしており、その活躍ぶりには頭が下がります。その頃、生意気な盛りだった私を息子のようにかわいがって下さり、その後、神学校での学びや牧師の仕事でニューヨークを離れニュージャージー、コネチカットそしてまたニュージャージーと移り住み、すっかりご無沙汰してしまった今も、心に留めて下さっていることが嬉しく目頭が潤んでしまいました。本来なら散々お世話になった私が色々恩返しをすべきところを逆に良くして頂いて、何とも幸せ者です。「栄さん、ありがとう。」

私たちは実に多くの方のお世話になり、恩を受けて生きています。両親、恩師、学校や職場の先輩、友人、知人そして全ての恵みの源である神…数え上げたら切がありません。しかし私たちはそれらに人々にそして神に感謝をしているのでしょうか？また今助けを必要としている人に、自分が受けた恩を更に別な形で返すべく、手を差し伸べているのでしょうか？今も昔も自分が受けた恩を忘れている人のなんと多いことでしょうか。人として恥ずかしい限りです。11月はそういった意味で、感謝することを考え直し、実践する良い機会です。

冒頭の詩篇は全詩篇150編ある中で最も短い詩篇です。しかしこの短い言葉の中に神への感謝と信頼が込められています。感謝の気持ち、信仰の心は言葉数が多いとか少ないとかの問題ではありません。どれほどの熱い思い、深い感謝、喜びが含まれているかだと思えます。感謝の足りない私ですが、「多くの方の愛、優しさを心からありがたいなあ。」と感じています。今回は鈴木栄さんの名前を掲載しましたが、これまでも実に多くの方に祈り支えられ、具体的奉仕を頂き、そして献金を頂いてきております。改めて感謝いたします。皆様と神に恩返しをすべく、これからも益々教会伝道に励んで行きたいと思えます。皆様、どうぞ良い感謝祭をお迎えください。

吉松 純